

生物班

物理班

化学班

曾於高科学部が活躍



7年連続九州大会 2班全国へ

曾於高校科学部の生物班、物理班、化学班が2020年度、そろつて九州地区の高校生理科研究発表大会で好成績を収めた。九州大会出場は14年の開校から7年連続。15年からカマキリに寄生するハリガネムシの研究を続ける生物班、1年生2人が奮闘した物理班は、今年8月に和歌山県で開かれる全国大会に駒を進めた。

生物班はハリガネムシの大きさが寄生するカマキリの種類によって違う点に着目。太さ、長さが寄生先の体液量の影響を受けていることを突き止めた。物理班は「ネオジウム磁石球がN極が向かい合って静止する原因」、化学班は「廃棄野菜を使つたソーセージの着色」をテーマに研究した。

3班は昨秋あつた県大会で国分高校（霧島市）など5校とどもに所属する宮元健士郎部長（文理科3年）は「3班そろつて九州大会に出場することを目標に掲げ、お互いに刺激し合つて研究してきた。全国大会でより説得力を持つた発表ができるように内容を練り直した」と話した。

生物、物理、化学の3班が九州大会で活躍した曾於高校科学部

（三宅太郎）